



NEWS RELEASE

報道関係 各位

2007年12月4日

アジアハンドボール連盟(AHF)主催大会アンフェア運営への 対策について 記者会見 12月12日(水)

本年9月1日(土)～6日(木)に、愛知県豊田市にて開催された「2008北京オリンピック男子アジア予選愛知・豊田大会」において、「中東の笛」が問題となり、マスコミ各社にも大きく取り扱っていただきました。

今般、日本ハンドボール協会は、同様に中東の笛に悩まされている韓国ハンドボール連盟と連携して、この対策について検討いたしました。その報告をさせていただきます。年末でお忙しいとは存じますが、ご参集いただきますよう宜しくお願いいたします。

記

1. 日時 2007年12月12日(水) 15:00～
2. 会場 岸記念体育会館3階 記者クラブ
3. 出席予定者
市原 則之 日本ハンドボール協会副会長
川上 憲太 日本ハンドボール協会専務理事
4. 資料
IHF理事会提出議題

以上



IHF 理事会提出議題

(提案)

世界選手権・オリンピックに通じる大陸予選を、全て IHF の直接管理の下実施する。

テクニカルデリゲートを組織し、IHF が直接レフェリーを指名する。

—スポーツの公平性を追及し、アジアハンドボール現状を改善するために—

アジアハンドボール連盟主催の試合において、過去 10 数年にわたり不公平な運営がなされて来た。当初は男子代表の試合であったが、近年は女子の試合やジュニアの試合にも、そうした運営が及んで来ている。

本年 9 月日本の豊田市で行なわれた、北京オリンピックアジア地区予選でも、大勢のハンドボールを愛する若者の前で、露骨な、偏りのある笛が吹かれた。

不公平極まりないレフェリングは、若者達のハンドボール離れを招き、アジアにおけるハンドボールの発展に重大な影響を及ぼしている。

正にアジアにおけるハンドボールは未曾有の危機に直面していると言える。

我々の経験した AHF 主催大会における、アンフェア事例を紹介し、その実情を訴えらると共に以下の改善提案をおこなう。

世界選手権・オリンピックに通じる大陸予選を、全て IHF の直接管理の下実施する。

テクニカルデリゲートを組織し、IHF が直接レフェリーを指名する。

我々の本提案に対し、IHF では真摯に検討され、結論を出すことを要請する。

この提案が受け入れられない場合は、

世界選手権並びにオリンピック予選を東西アジアに分けて、開催できるよう要望するものであり、更にはアジアハンドボール連盟を西アジアハンドボール連盟と東アジアハンドボール連盟に、分割することを認めるよう要望するものである。

更に我々は国際オリンピック委員会 (IOC) へもアジアハンドボールの現状を訴え、善処を求めていくつもりだ。

フェアプレーの精神を浸透させ、オリンピックムーブメントの一層の推進を切に願うものであります。

日本ハンドボール協会

副会長 市原則之

韓国ハンドボール連盟

第 1 副会長 鄭 亨均